

北見地区消防組合

平成26年救急統計



平成 26 年 11 月北見信金より寄贈

目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・ ・ ・ P1～2
2、地区別救急事案発生件数	・ ・ ・ P3～4
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・ ・ ・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・ ・ ・ P5～6
5、傷病者程度別搬送人員状況	・ ・ ・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・ ・ ・ P8
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・ ・ ・ P8
8、管外搬送状況	・ ・ ・ P9
9、病院問合せ回数、収容拒否状況	・ ・ ・ P10
10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況	・ ・ ・ P11
11、救命センター（北見赤十字病院）搬送状況	・ ・ ・ P11
12、特定行為実施状況	・ ・ ・ P12
13、救命講習実施状況	・ ・ ・ P13
14、市民による応急手当実施状況	・ ・ ・ P14
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・ ・ ・ P15
16、脳疾患患者及び心疾患患者搬送状況	・ ・ ・ P16～17
17、ドクターカー出動状況	・ ・ ・ P18

※ 各統計の割合(%)は小数点第2位以下を四捨五入としている

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

平成 26 年中の救急出動件数は 5,283 件で、前年比 110 件(2.1%)増加し、搬送人員は 4,821 人で 35 人(0.7%)増加している。また、平成 24 年からは 3 年連続で 5,000 件を超えている（図 1-1）（表 1-1）（表 1-2）。

図 1-1 救急件数の推移

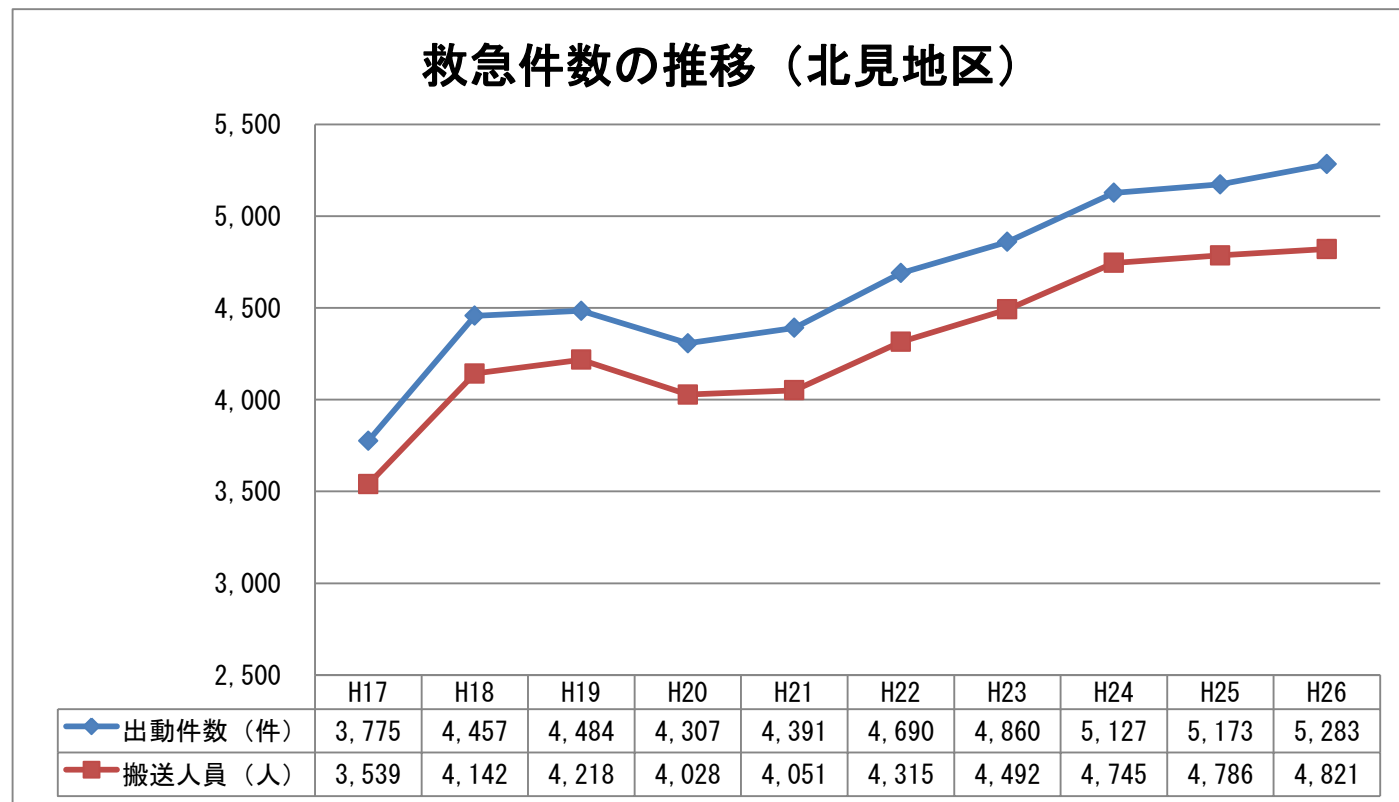


表 1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
1990 (H2)	1,042	729	6	0					1,777	56	5	15	76	1,853	
1991 (H3)	1,002	617	9	0					1,628	65	2	101	168	1,796	-57 -3.1%
1992 (H4)	1,092	766	15	0					1,873	65	5	111	181	2,054	258 14.4%
1993 (H5)	1,232	691	15	0					1,938	74	0	102	176	2,114	60 2.9%
1994 (H6)	1,285	697	12	0					1,994	89	0	127	216	2,210	96 4.5%
1995 (H7)	1,304	853	20	0					2,177	81	0	135	216	2,393	183 8.3%
1996 (H8)	1,354	881	36	1					2,272	106	126	134	366	2,638	245 10.2%
1997 (H9)	1,438	900	26	3					2,367	88	154	169	411	2,778	140 5.3%
1998 (H10)	1,367	808	19	0					2,194	108	134	167	409	2,603	-175 -6.3%
1999 (H11)	1,466	928	31	0					2,425	101	159	163	423	2,848	245 9.4%
2000 (H12)	1,604	1,032	38	2					2,676	136	161	147	444	3,120	272 9.6%
2001 (H13)	1,564	1,029	34	2					2,629	127	157	190	474	3,103	-17 -0.5%
2002 (H14)	1,613	1,153	36	1					2,803	133	167	180	480	3,283	180 5.8%
2003 (H15)	1,783	1,203	150	0					3,136	156	163	183	502	3,638	355 10.8%
2004 (H16)	1,772	1,280	249	9					3,310	131	192	215	538	3,848	210 5.8%
2005 (H17)	1,643	1,220	310	3					3,176	159	231	209	599	3,775	-73 -1.9%
2006 (H18)	1,711	1,231	279	3	296	220	358		4,098	168		191	359	4,457	682 18.1%
2007 (H19)	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163		214	377	4,484	27 0.6%
2008 (H20)	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145		173	318	4,307	-177 -3.9%
2009 (H21)	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159		205	364	4,391	84 2.0%
2010 (H22)	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168		196	364	4,690	299 6.8%
2011 (H23)	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210		208	418	4,860	170 3.6%
2012 (H24)	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158		189	347	5,127	267 5.5%
2013 (H25)	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146		205	351	5,173	46 0.9%
2014 (H26)	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152		216	368	5,283	110 2.1%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	合計	前年比
1990 (H2)	1,030	765	5	0					1,800	57	0	14	71	1,871	
1991 (H3)	949	625	6	0					1,580	66	0	111	177	1,757	-114 -6.1%
1992 (H4)	1,088	785	16	0					1,889	72	0	119	191	2,080	323 18.4%
1993 (H5)	1,234	716	15	0					1,965	82	0	110	192	2,157	77 3.7%
1994 (H6)	1,256	711	12	0					1,979	101	0	129	230	2,209	52 2.4%
1995 (H7)	1,284	848	23	0					2,155	82	0	147	229	2,384	175 7.9%
1996 (H8)	1,312	902	26	0					2,240	107	124	147	378	2,618	234 9.8%
1997 (H9)	1,366	904	19	0					2,289	81	159	173	413	2,702	84 3.2%
1998 (H10)	1,335	812	17	0					2,164	101	135	174	410	2,574	-128 -4.7%
1999 (H11)	1,427	926	30	0					2,383	107	165	160	432	2,815	241 9.4%
2000 (H12)	1,581	1,009	34	1					2,625	134	161	154	449	3,074	259 9.2%
2001 (H13)	1,559	1,037	38	0					2,634	135	160	188	483	3,117	43 1.4%
2002 (H14)	1,565	1,104	34	0					2,703	127	174	177	478	3,181	64 2.1%
2003 (H15)	1,657	1,166	145	0					2,968	143	157	174	474	3,442	261 8.2%
2004 (H16)	1,689	1,227	251	11					3,178	127	181	219	527	3,705	263 7.6%
2005 (H17)	1,530	1,149	311	3					2,993	146	204	196	546	3,539	-166 -4.5%
2006 (H18)	1,567	1,155	259	2	277	209	333		3,802	157		183	340	4,142	603 17.0%
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159		211	370	4,218	76 1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139		166	305	4,028	-190 -4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150		201	351	4,051	23 0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167		179	346	4,315	264 6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202		199	401	4,492	177 4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154		179	333	4,745	253 5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140		184	324	4,786	41 0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149		201	350	4,821	35 0.7%

2、地区別救急事案発生件数

平成 26 年中の地区別救急事案をみると、北見は 4,915 件で前年比 93 件（1.9%）の増加、置戸は 152 件で前年比 6 件（4.1%）の増加、訓子府は 216 件で前年比 11 件（5.4%）の増加となっている（表 2-1）。自治区別では、端野が 596 件で前年比 17 件（2.9%）増加したが、常呂は 164 件で前年比 27 件（14.1%）減少、留辺蘂は 399 件で前年比 20 件（4.8%）減少となっている（表 2-2）。また事故種別割合は、急病（63.8%）による救急要請が占め、一般負傷（12.7%）、転院搬送（10.2%）、交通（5.8%）となっている。（表 2-3）

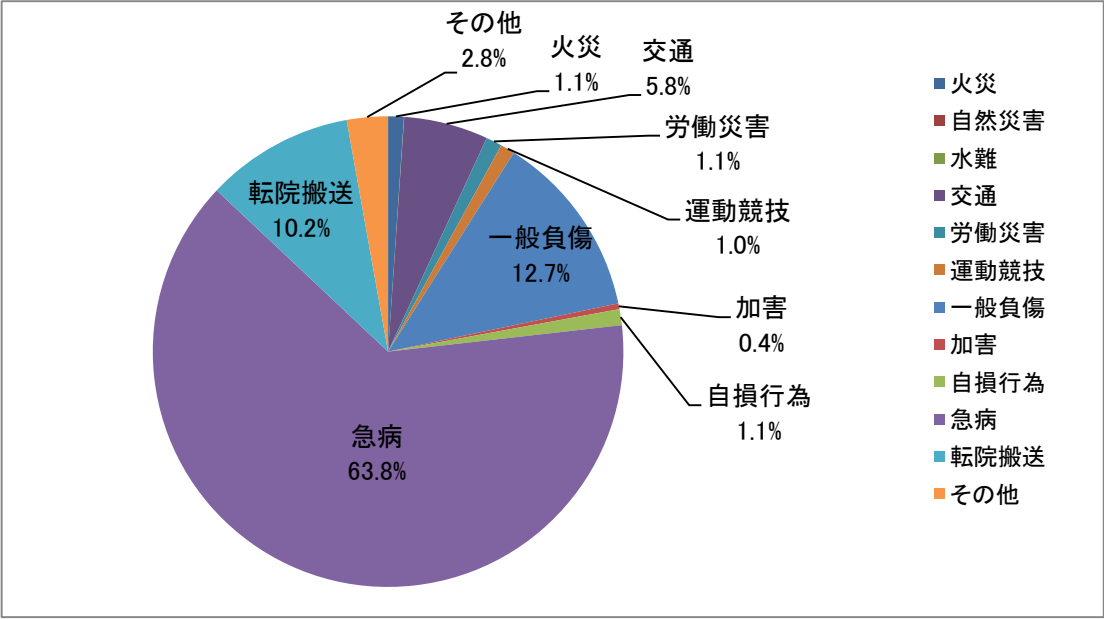
表 2-1 地区別救急事故発生件数

事故種別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
		災	然	難	通	害	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
地区別		災	害	難	通	害	技	傷	害	為	病	搬	搬	材	他	
合	出場件数	57	0	1	306	58	52	673	21	58	3,371	537	0	0	149	5,283
	増減数	11	△ 1	1	△ 32	△ 12	9	64	1	△ 5	84	△ 23	△ 2	0	15	110
	搬送人員	7	0	1	328	55	52	629	17	45	3,150	533	0	0	4	4,821
	増減数	△ 2	△ 1	1	△ 36	△ 10	11	60	△ 2	0	36	△ 24	0	0	2	35
計北	出場件数	51	0	1	281	50	50	631	20	57	3,135	497	0	0	142	4,915
	増減数	9	△ 1	1	△ 34	△ 5	8	54	1	△ 5	62	△ 11	△ 2	0	16	93
	搬送人員	7	0	1	297	47	50	590	16	44	2,922	493	0	0	4	4,471
	増減数	△ 2	△ 1	1	△ 46	△ 4	10	50	△ 2	0	13	△ 12	0	0	2	9
見置	出場件数	1	0	0	8	7	0	15	0	1	77	38	0	0	5	152
	増減数	1	0	0	1	4	0	4	0	1	6	△ 12	0	0	1	6
	搬送人員	0	0	0	12	7	0	15	0	1	76	38	0	0	0	149
	増減数	0	0	0	6	4	0	4	0	1	6	△ 12	0	0	0	9
戸訓	出場件数	5	0	0	17	1	2	27	1	0	159	2	0	0	2	216
	増減数	1	0	0	1	△ 11	1	6	0	△ 1	16	0	0	0	△ 2	11
	搬送人員	0	0	0	19	1	2	24	1	0	152	2	0	0	0	201
	増減数	0	0	0	4	△ 10	1	6	0	△ 1	17	0	0	0	0	17

表 2-2 自治区別救急事故発生件数

北	出場件数	43	0	0	207	31	38	465	17	51	2,410	386	0	0	108	3,756
	増減数	10	0	0	△ 23	6	2	40	2	1	59	17	△ 2	0	11	123
	搬送人員	6	0	0	219	27	38	429	14	40	2,234	375	0	0	2	3,384
	増減数	1	0	0	△ 33	4	4	36	△ 2	2	10	8	0	0	2	32
見端	出場件数	2	0	0	46	11	6	88	1	2	369	58	0	0	13	596
	増減数	0	0	0	△ 8	2	3	13	△ 2	△ 5	16	△ 2	0	0	0	17
	搬送人員	1	0	0	44	11	6	87	0	0	345	56	0	0	1	551
	増減数	0	0	0	△ 7	3	3	14	△ 2	△ 5	17	△ 3	0	0	1	21
野常	出場件数	2	0	1	5	1	2	23	1	2	103	19	0	0	5	164
	増減数	1	0	1	△ 8	△ 12	1	△ 3	0	1	7	△ 16	0	0	1	△ 27
	搬送人員	0	0	1	6	1	2	23	1	2	101	19	0	0	0	156
	増減数	0	0	1	△ 10	△ 11	1	△ 3	1	1	5	△ 16	0	0	0	△ 31
呂留	出場件数	4	0	0	23	7	4	55	1	2	253	34	0	0	16	399
	増減数	△ 2	△ 1	0	5	△ 1	2	4	1	△ 2	△ 20	△ 10	0	0	4	△ 20
	搬送人員	0	0	0	28	7	4	50	1	1	241	34	0	0	1	367
	増減数	△ 3	△ 1	0	4	△ 1	2	2	1	1	△ 20	△ 10	0	0	△ 1	△ 26

表 2-3 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

平成 26 年中の各活動時間は、過去 9 年間で比較し大きな変化はみられないものの、現場到着時間は前年と同様の結果となっている（図 3-1、表 3-1）。

図 3-1 活動時間の推移

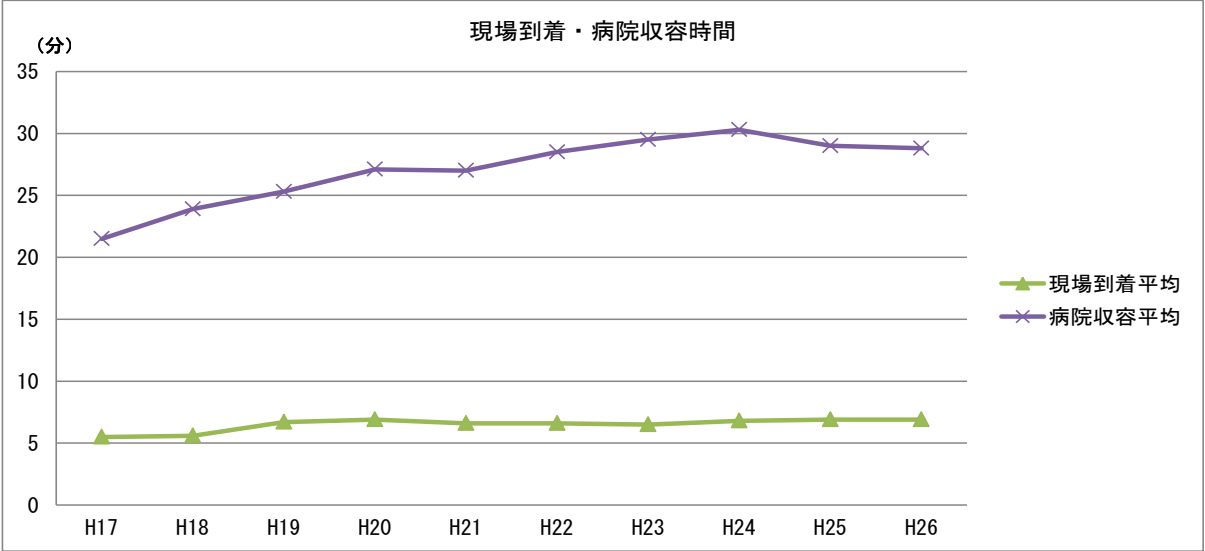


表 3-1 過去5年間の活動時間の推移(分)

北見消防の活動時間の推移（過去5年間）

項目 \ 年	H22	H23	H24	H25	H26
現場到着平均時間（分）	6.6分	6.5分	6.8分	6.9分	6.9分
病院収容平均時間（分）	28.5分	29.5分	30.3分	29.0分	28.8分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

平成 26 年中の搬送人員 4,821 人に対し年齢区分における高齢者（65 歳以上）の搬送人員は 2,922 人となっており全体の 60.6%を占めている（表 4-1）（図 4-1）。

高齢化率の上昇と同様に高齢者の搬送人員は年々増加傾向にあり（表 4-2）（図 4-2）（図 4-3）、また 2 回以上搬送されている高齢者の数は 299 人で（図 4-3）延べ 669 件となっている。

表 4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別 年齢区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資機材等輸送	その他	計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	9
乳幼児	0	0	0	10	0	0	33	1	0	104	6	0	0	0	154
少年	0	0	0	35	0	23	15	0	4	56	5	0	0	0	138
成人	4	0	1	204	44	28	154	10	31	957	164	0	0	1	1,598
高齢者	3	0	0	79	11	1	427	6	10	2,032	350	0	0	3	2,922
計	7	0	1	328	55	52	629	17	45	3,150	533	0	0	4	4,821

【年齢分類】
新生児＝生後28日未満
乳幼児＝28日以上7歳未満
少年＝7歳以上18歳未満
成人＝18歳以上65歳未満
高齢者＝65歳以上

図 4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

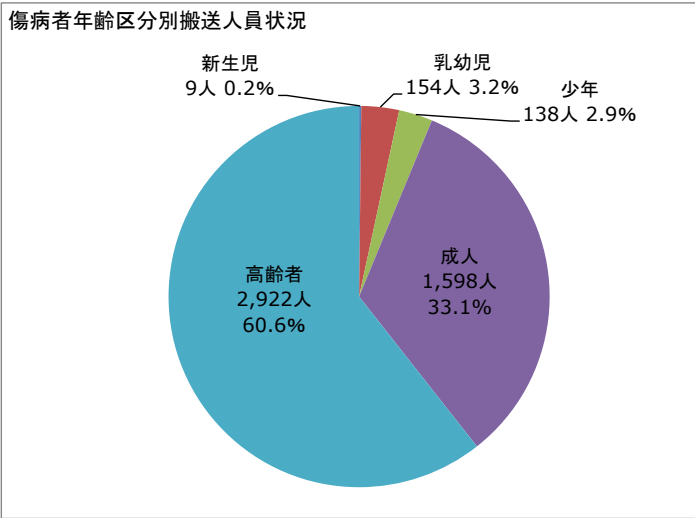
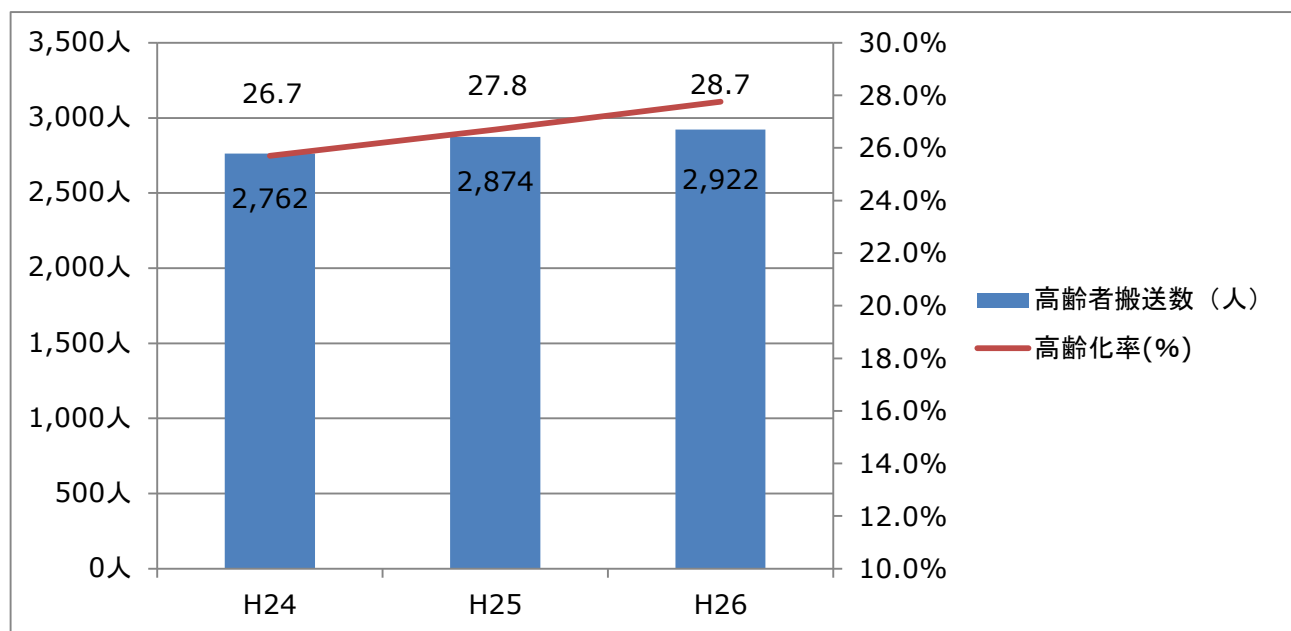


表 4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H22		H23		H24		H25		H26	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数
急病		1,667	139	1,790	123	1,928	138	1,971	43	2,032	61
一般		303	30	344	32	409	74	386	△ 23	427	41
交通		90	17	86	△ 4	90	4	103	13	79	△ 24
その他		342	△ 15	374	41	335	△ 48	414	79	384	△ 30
計		2,402	171	2,594	192	2,762	168	2,874	112	2,922	48
うち老健施設から		217		369	152	351	△ 18	352	1	413	61

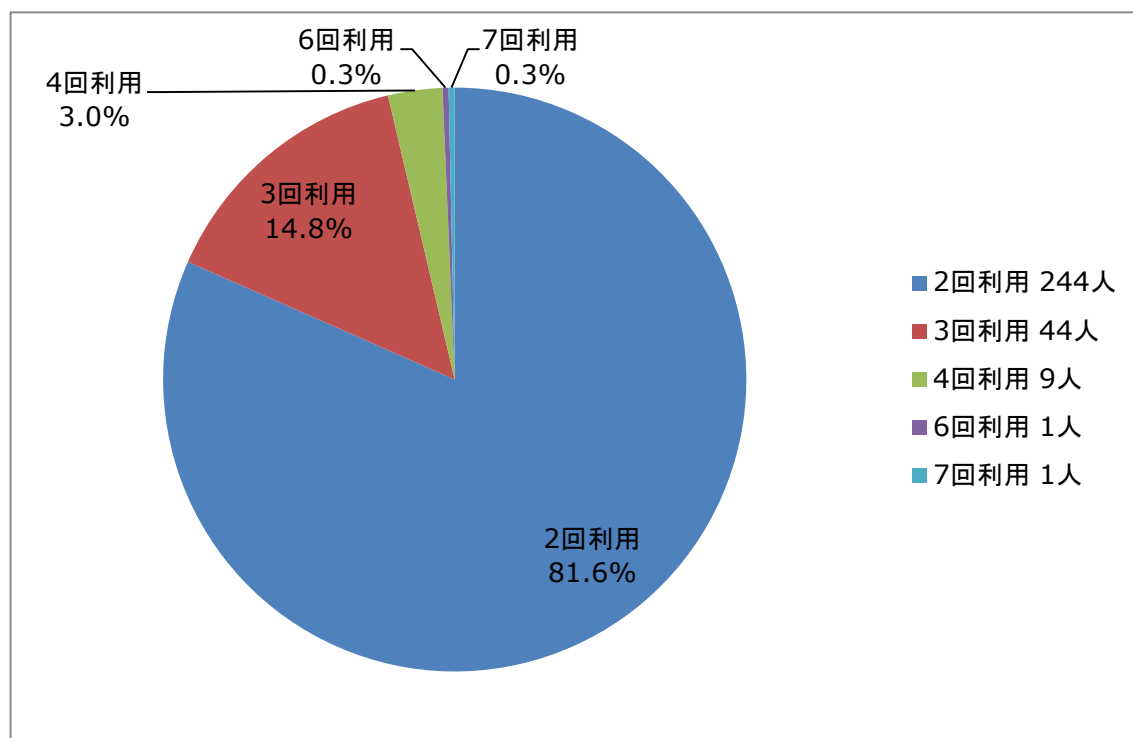
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は、延べ人数

※高齢化率は各年9月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病者程度別搬送人員状況

平成26年中の搬送人員4,821人のうち、死亡、重症、中等症の傷病者の割合を合計すると57.6%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合(合計)は42.4%となっている(図5-1、表5-1)。

図5-1 傷病者程度別内訳

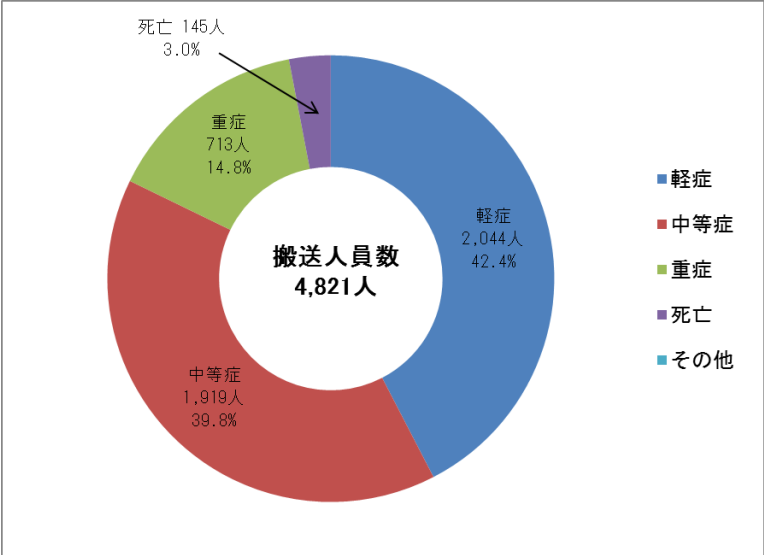


表5-1 傷病程度分類

傷病程度分類		事故種別															計	割合
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資器材輸送	その他			
程度																		
死亡	亡	0	0	0	4	1	0	12	0	10	114	1	0	0	3	145	3.0%	
重症	症	2	0	0	20	12	2	55	1	3	465	153	0	0	0	713	14.8%	
中等	症	0	0	1	60	24	14	259	3	22	1,233	303	0	0	0	1,919	39.8%	
軽症	症	5	0	0	244	18	36	303	13	10	1,338	76	0	0	1	2,044	42.4%	
その他	他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
計		7	0	1	328	55	52	629	17	45	3,150	533	0	0	4	4,821	100.0%	

※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの

※重症とは、傷病の程度が3週間の入院加療を必要とするもの

※中等症とは、傷病者の程度が重傷又は軽症以外のもの

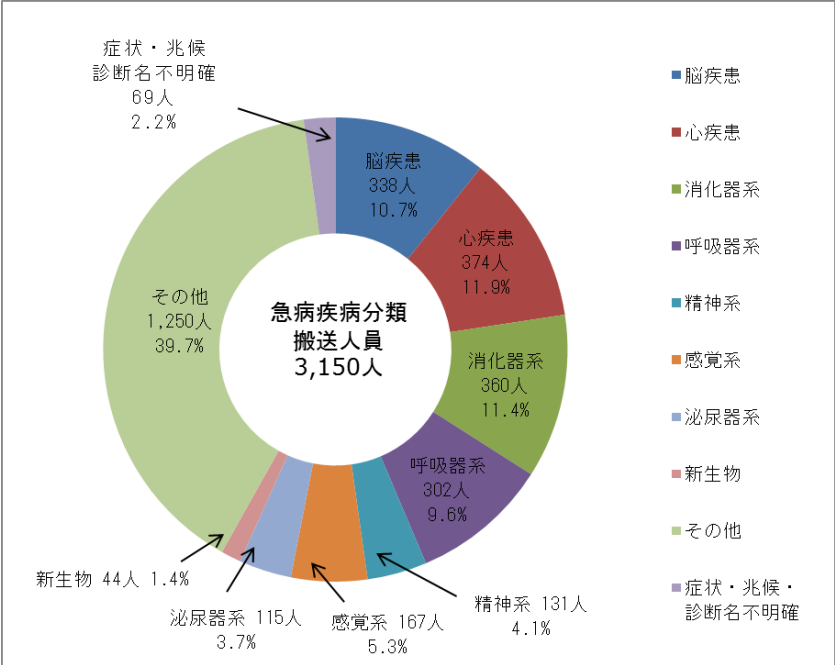
※軽症とは、傷病の程度が入院加療を必要としないもの

※その他とは、それ以外のもの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

平成 26 年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別にみると、脳疾患 338 人（10.7%）、心疾患 374 人（11.9%）、消化器系 360 人（11.4%）、呼吸器系 302 人（9.6%）、となっている（図 6－1）。

図 6－1 急病患者疾病内訳



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

平成 26 年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、脳疾患（49.4%）、心疾患（32.1%）新生物（22.7%）、の順となっている（表 7－1）。

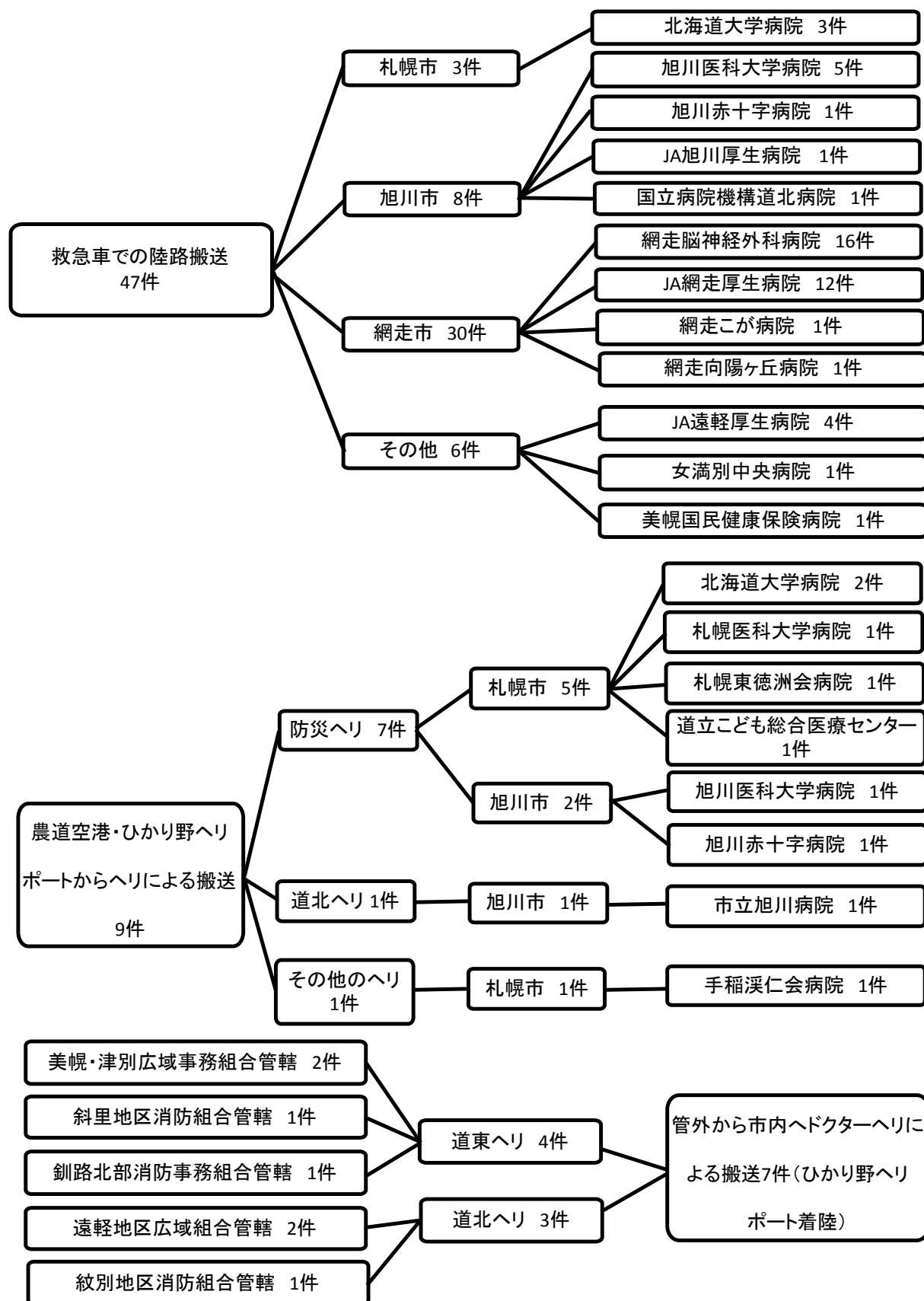
表 7－1 疾病分類項目別重症割合

種別 項目	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名 不明確	計
搬送人員	338	374	360	302	131	167	115	44	1,250	69	3,150
重症以上	167	120	76	67	4	8	16	10	106	5	579
割合	49.4%	32.1%	21.1%	22.2%	3.1%	4.8%	13.9%	22.7%	8.5%	7.2%	18.4%

8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況

管外搬送は、前年比4件減少している。地域別では、札幌市への搬送が6件減少、網走市への搬送が8件減少、旭川市への搬送が8件増加している。ヘリコプター等による航空機搬送は、前年比6件減少している（図8-1）。

図8-1 管外搬送状況の内訳



9、病院問合せ回数、収容拒否状況

平成 26 年中における病院問合せ回数で、1 回で決定したものは 4,086 件（84.8%）、問い合わせ回数 2 回以上で最多の 8 回を合わせると、735 件（15.2%）となっている（図 9-1）。

また、受入拒否件数は 981 件で受入の拒否理由として処置困難 364 件（37.1%）、ベッド満床 312 件（31.8%）となっている。特に軽症 534 件（54.4%）の傷病者の収容拒否が多くみられた（表 9-1）。

図 9-1 病院問合せ回数

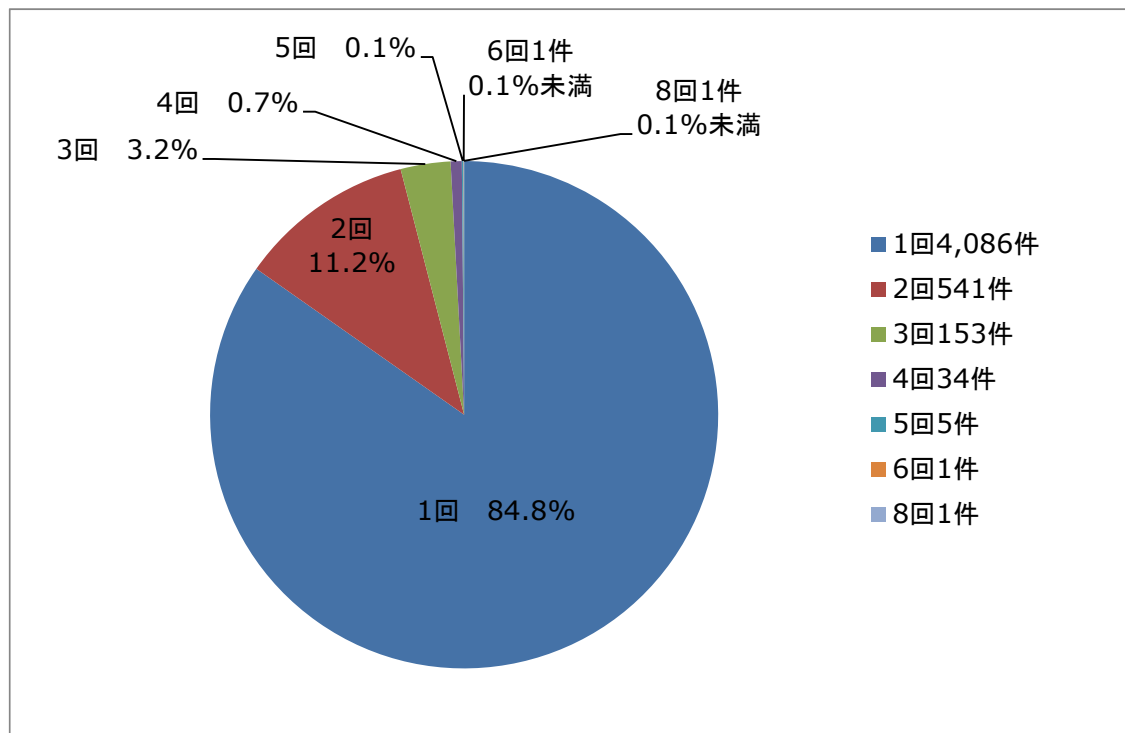


表 9-1 救急搬送における医療機関の収容拒否状況

区分 名称		手術中・患者対応中	ベッド満床	処置困難	専門外	医師不在	その他	合計
全体	件数	70	312	364	101	34	100	981
	割合	7.1%	31.8%	37.1%	10.3%	3.5%	10.2%	100%
重症以上	件数	11	46	39	4	1	8	109
	割合	10.1%	42.2%	35.8%	3.7%	0.9%	7.3%	11.1%
中等症	件数	18	119	117	33	16	35	338
	割合	5.3%	35.2%	34.6%	9.8%	4.7%	10.4%	34.5%
軽症	件数	41	147	208	64	17	57	534
	割合	7.7%	27.5%	39.0%	12.0%	3.2%	10.6%	54.4%

※一次医療機関含む（医師不在数は、一次医療機関のみが該当）

10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況

平成 26 年中の心肺停止患者搬送数は 160 人と前年に比べ 11 人減少した（図 10－1）。社会復帰数は 5 人であった（表 10－1）。

また下記の統計に含まれないが、通報時点で心肺停止となっていた傷病者を住民による応急手当により、救急隊到着時には心拍再開していた奏功事例が 4 件あった。

図 10－1

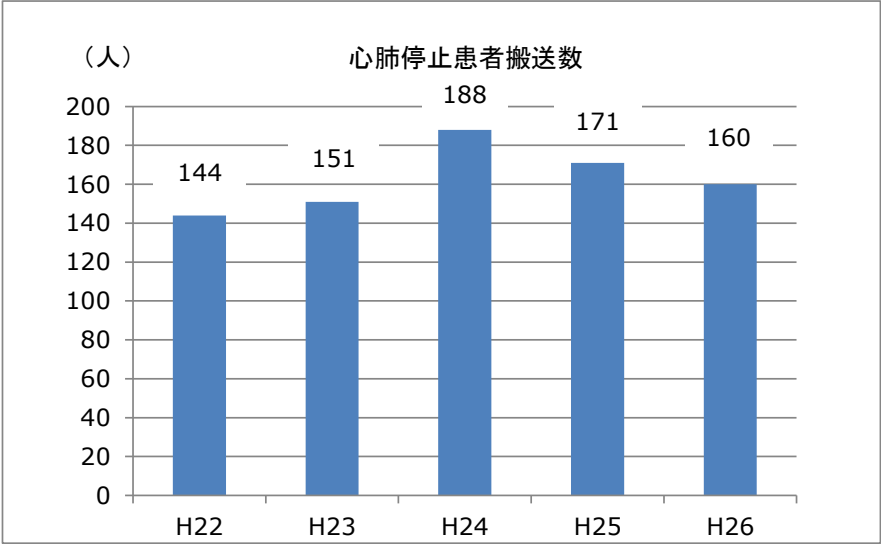


表 10－1

心肺停止患者社会復帰率（過去5年間）

年	H22	H23	H24	H25	H26
心肺停止患者搬送数	144	151	188	171	160
社会復帰者数	1	4	6	3	5
社会復帰率	0.7%	2.6%	3.2%	1.8%	3.1%

11、救命センター（北見赤十字病院）搬送状況

平成 26 年の救命センターへの搬送人員は前年と比べ 84 人増加している。また、CPA（心肺停止患者）の搬送は 160 人中 114 人と 71.3%が救命センターへ搬送されている（表 11－1）。

表 11－1

救命センター（北見赤十字病院）搬送人員

事故種別		急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	計
北見地区	搬送人員	3,150	629	328	55	45	17	52	533	12	4,821
	CPA搬送人員	125	15	2	1	9	0	0	3	5	160
救命センター (北見赤十字病院)	搬送人員	1,449	291	128	33	35	8	21	383	10	2,358
	搬送割合	46.0%	46.3%	39.0%	60.0%	77.8%	47.1%	40.4%	71.9%	83.3%	48.9%
	CPA搬送人員	86	12	2	1	8	0	0	1	4	114

12、特定行為実施状況

平成 26 年中の特定行為実施状況では、すべての項目が減少した。また平成 26 年 8 月から、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保（CPA 前輸液）、重度傷病者に対する血糖測定及び低血糖症例へのブドウ糖溶液の投与が運用開始され、血糖測定を 6 件実施した。

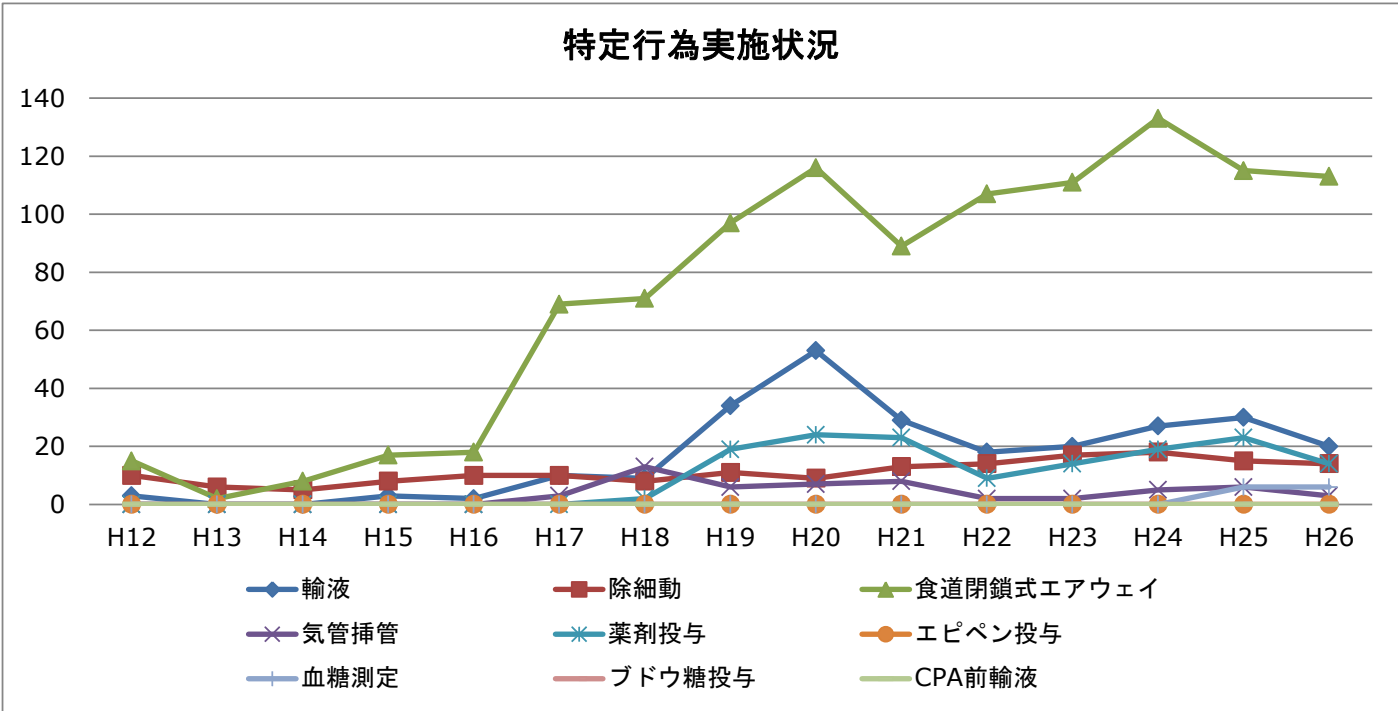
（表 12－1）（図 12－1）。

表 12－1

特定行為実施状況（過去5年間）

項目 年	輸液	除細動	食道閉鎖式 エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン 投与	血糖測定	ブドウ糖 投与	CPA前 輸液
H22	18	14	107	2	9	0			
H23	20	17	111	2	14	0			
H24	27	18	133	5	19	0			
H25	30	15	115	6	23	0			
H26	20	14	113	3	14	0	6	0	0

図 12－1



13、救命講習実施状況

平成 24 年からの実施状況は、普通救命講習及び、一般講習等合わせて、10,698 人の受講者となっている（表 13-1）。

また、平成 26 年から一般講習の中で、当組合独自の短時間講習を試験的に導入し、普及に取り組んでいる。

表 13-1

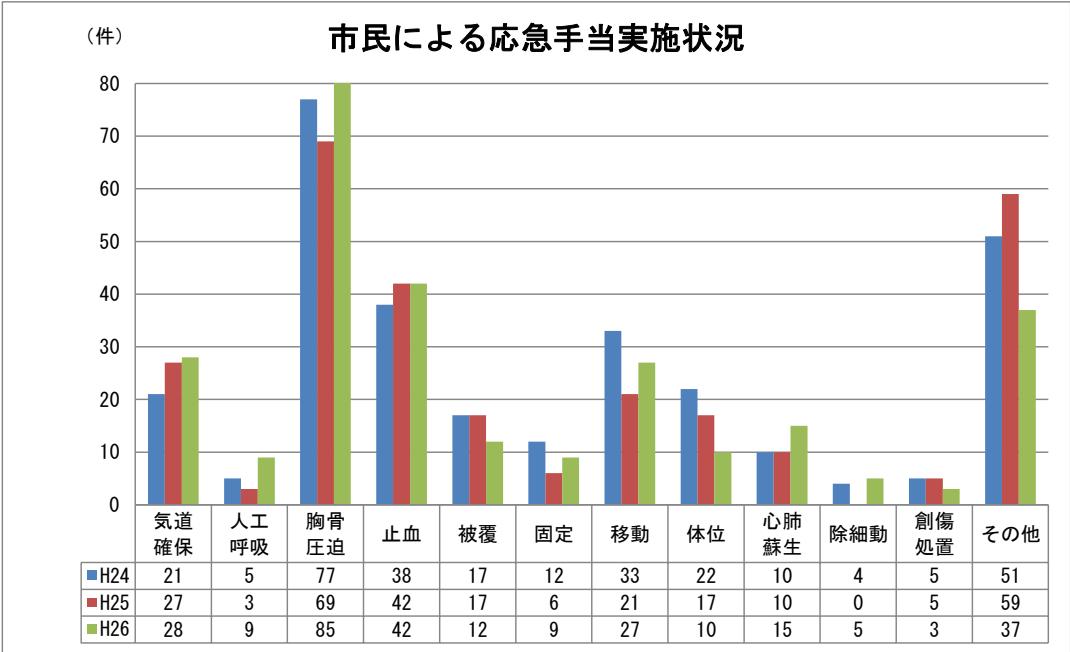
年	講習会			回数（回）	人員（人）
平成24年	普通救命講習		普通Ⅰ	81	1,628
			普通Ⅲ	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	13	277
			職域関係	18	405
			一 般	14	147
		応急手当 講習	学校関係	11	364
			職域関係	11	236
			一 般	15	425
	普及員講習			1	6
	指導員講習			1	1
患者等搬送事業者			0	0	
計			165	3,489	
平成25年	普通救命講習		普通Ⅰ	75	1,263
			普通Ⅲ	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	16	319
			職域関係	10	352
			一 般	15	324
		応急手当 講習	学校関係	10	403
			職域関係	13	407
			一 般	23	459
	普及員講習			2	19
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			1	2	
計			165	3,548	
平成26年	普通救命講習		普通Ⅰ	82	1,476
			普通Ⅲ	1	7
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	4	78
			職域関係	21	439
			一 般	4	60
		応急手当 講習	学校関係	15	281
			職域関係	16	309
			一 般	35	861
		短時間 講習	学校関係	2	45
			職域関係	3	44
			一 般	0	0
	普及員講習			3	61
	指導員講習			0	0
	患者等搬送事業者			0	0
計			186	3,661	
合計	普通救命講習		普通Ⅰ	238	4,367
			普通Ⅲ	1	7
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	33	674
			職域関係	49	1,196
			一 般	33	531
		応急手当 講習	学校関係	36	1,048
			職域関係	40	952
			一 般	73	1,745
		短時間 講習	学校関係	2	45
			職域関係	3	44
			一 般	0	0
	普及員講習			6	86
	指導員講習			1	1
	患者等搬送事業者			1	2
計			516	10,698	

14、市民による応急手当実施状況

過去 3 年による応急手当実施状況は、胸骨圧迫が最も多く実施されており、気道確保の実施状況は増加傾向が見られた（図 14－1）。

口頭指導と応急手当実施件数には、大きな開きが見られたが、胸骨圧迫の実施件数が 85 件と最も高かった（図 14－2）。

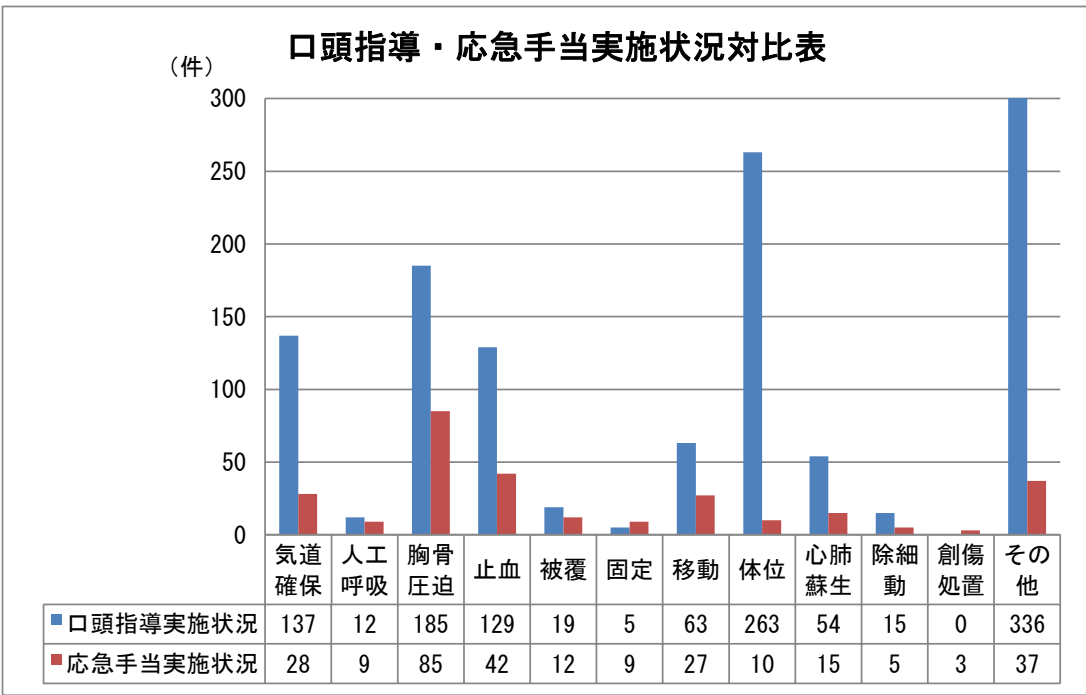
図 14－1



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの

※その他は、上記以外の冷却などの処置

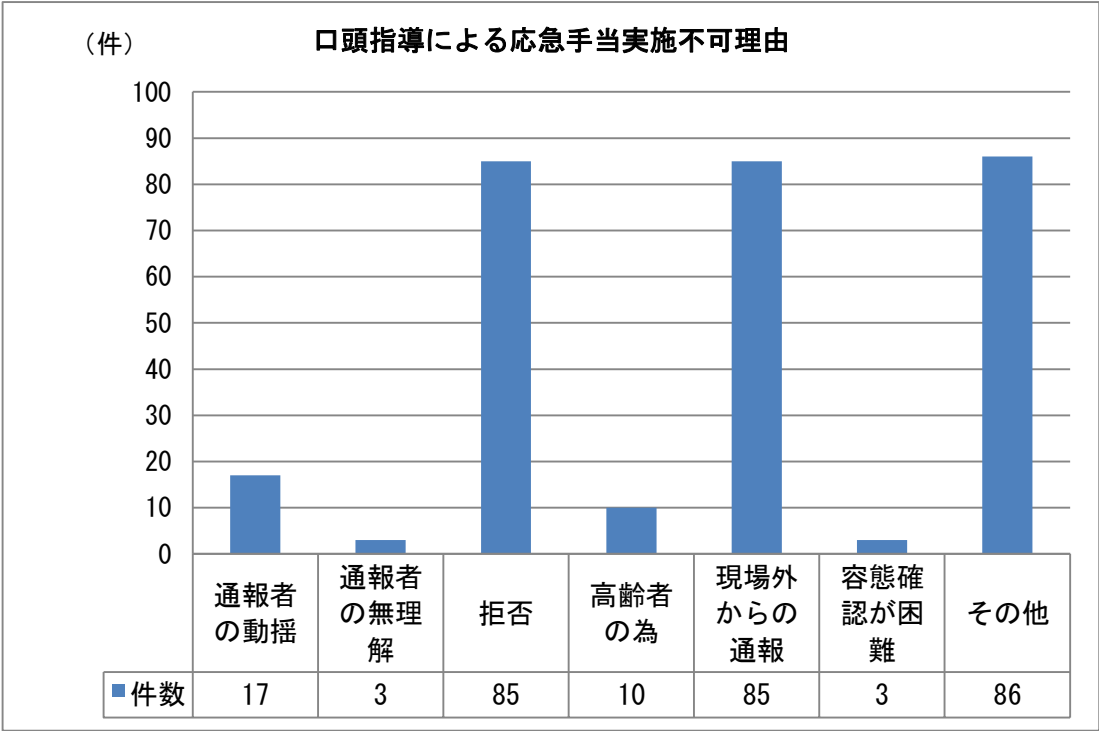
図 14－2



15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導をしたが応急手当を実施できなかった理由として、その他の 86 件が最も多く、拒否 85 件、現場外からの通報（頼まれ通報）85 件と続いている（図 15－1）。また、その他の内訳としては死亡徴候確認といった心肺停止後の時間経過等が多く含まれる。

図 15－1



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している

16、脳疾患及び心疾患の傷病別疾病分類

平成 26 年中の急病に占める脳疾患の割合は 3,365 件中 338 件で約 10%、心疾患の占める割合は 374 件で約 11%であった(図 16-1)。

脳疾患の傷病程度重症以上の患者は 338 件中 167 件で約 49%、心疾患の傷病程度重症以上の患者は 374 件中 120 件で約 32%あった(図 16-2)。

図 16-1

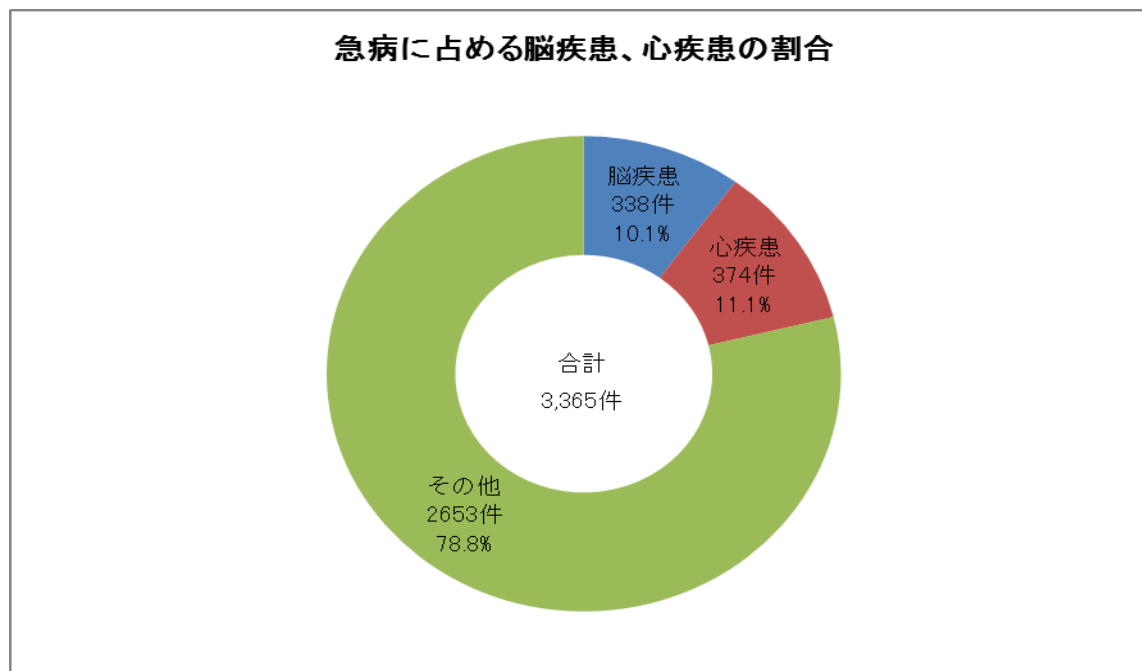
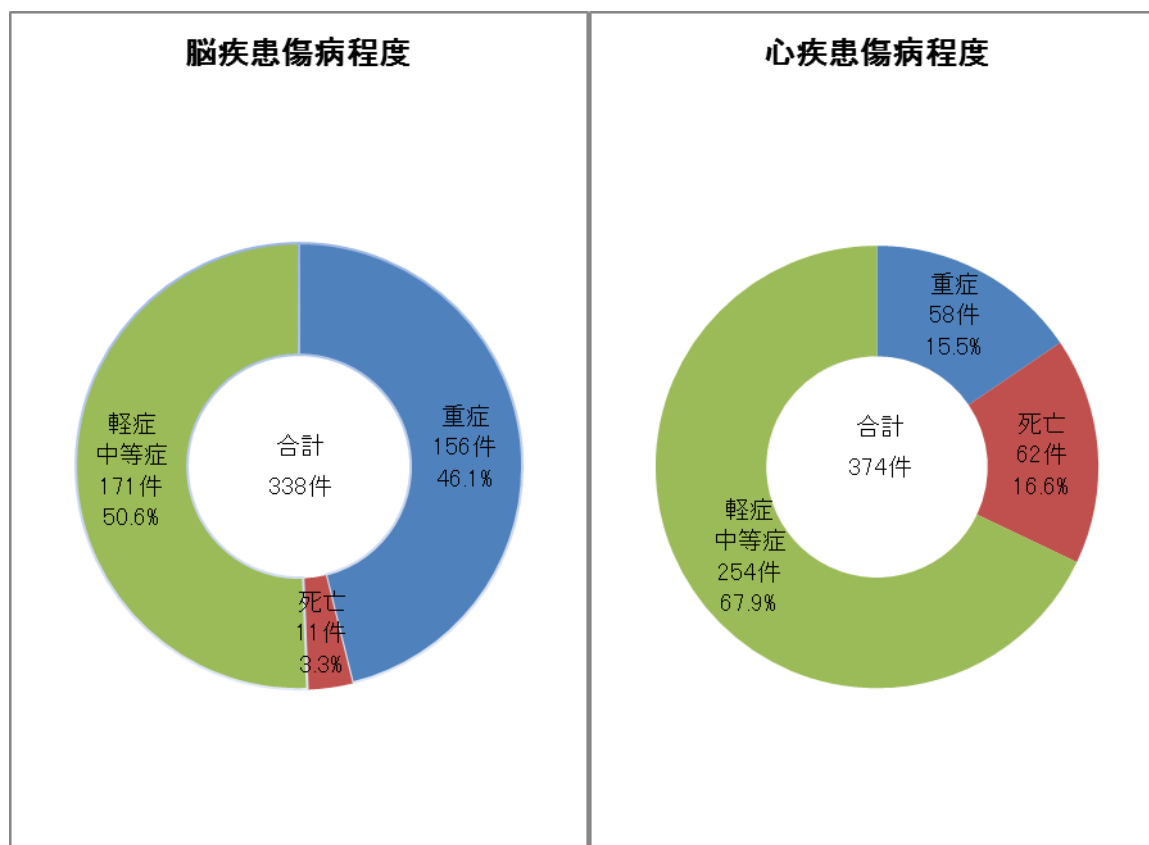
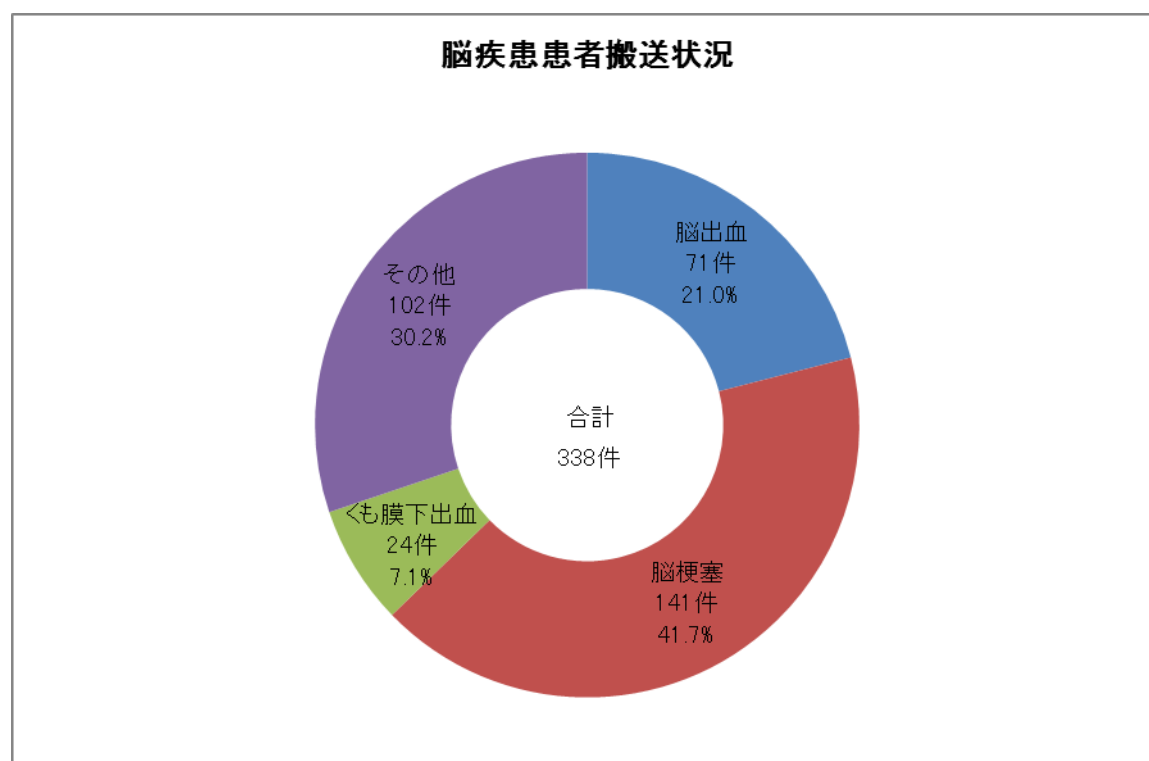


図 16-2



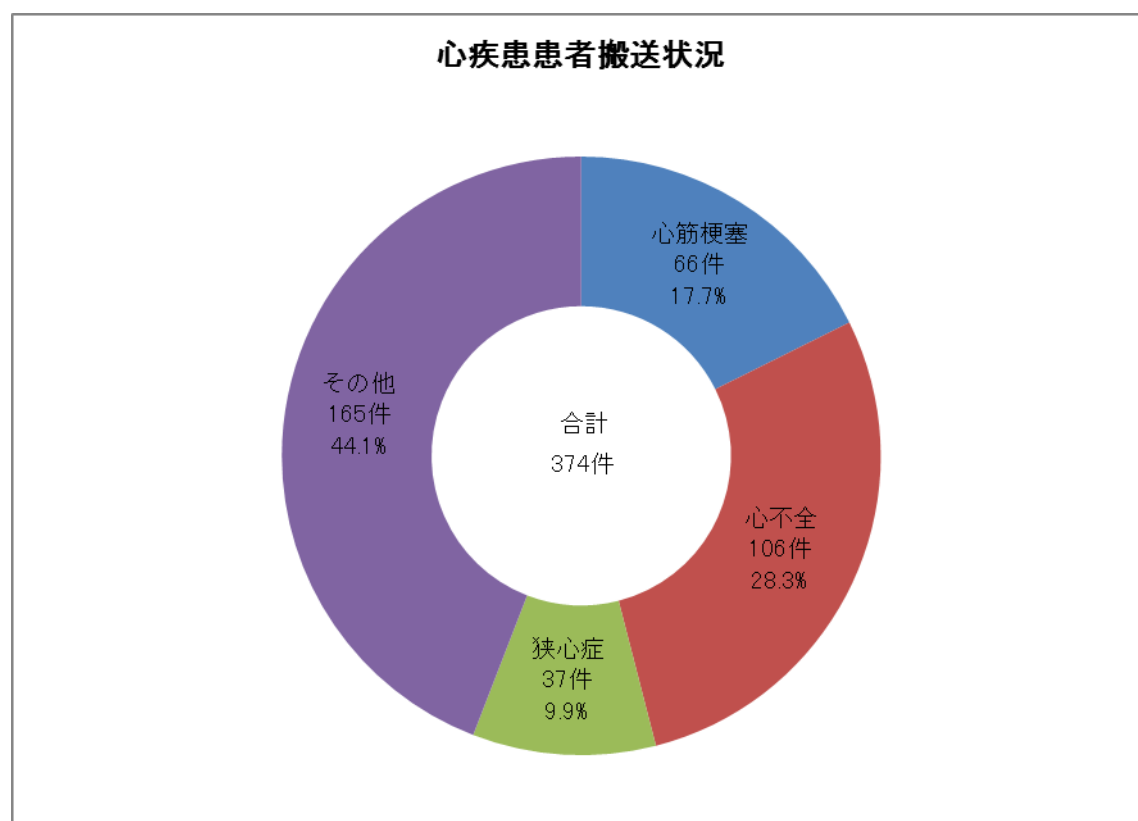
脳疾患患者の搬送状況として 338 件中脳卒中が 236 件で約 70%を占めた(図 16-3)。

図 16-3



心疾患患者の搬送状況として心不全、心筋梗塞、狭心症の順に多く、約 56%を占める(図 16-4)。

図 16-4



17、ドクターカー出動状況

平成 25 年 5 月よりドクターカーの運行が開始され、北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。

病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

平成 26 年中の運行状況は 13 件の出動要請があり、内訳は転院搬送に係るものが半数以上を占め、一般負傷が 2 件、労働災害、急病、自損行為がそれぞれ 1 件となった。